



ゼロフォー株式会社

見積もりソフトで、 板金・製缶の経営をサポート

日本はもろろん世界でも見当たらない板金の見積もりソフトを立ち上げたのが、神奈川県厚木市のゼロフォー株式会社だ。

見積もりは、利益の多寡に直結する大事な作業だが、忙しいときなど、つつい大雑把、つまり^{どんぶり}井勘定になっているのではないか。そこに着目し、見積もりソフト（原価計算ソフト）の販売を始めてまる6年、有効性が評価され、図面の3D化などにもジャンルを広げ多様な需要に広えている。代表取締役の石田浩太郎氏に「見積もりが持つ重要性」などを語っていただいた。

井勘定は儲からない

石田社長が板金の見積もりに着目したのは、商社をやっていたとき「見積もりが井勘定になっているのではないか」と感じたのがきっかけだった。

——加工がスタートする段階になって、「計算が間違っていた」「出し直し

をしたのですが」と言われたことが多々ありました。

見積もりをするには、原価表のようなものが必要ですが、値段の根拠は、見積もる人の経験からざっと弾き出されたものではないかと思えたのです。表現は悪いですが、井勘定です。

こちらも上がってきた見積もりを精査せずに、クライアントに出すのは、「良くない」ということで、見積もりソフトを探したけれども日本はもろろん

ん世界でも見つからない。「ないならつくろうか」でつくって7年目を迎えた今は、全国360社で使われ、返品はゼロです。

正確な原価計算がベースになっていない見積もりは結論から言えば「儲からない・後継が育たない・信頼感をなくす」等マイナスばかりです。

日本の製造業は、いいものを作りまです。しかし、値段交渉は苦手です。それは、井勘定だから、根拠が示せないからです。

このソフトは値段交渉に勇氣を持てるようになってきています。このラインを切ると赤字になると分かるし、「他社はこの値段だ」と言われても「ウチはこうだから、そこまでは落とせないけれど、このくらいならできます」と言えるのです。



本社玄関

交渉をした結果、「利益は出ないけど、仕事がないから、やるか」は、いい。まずいのは、フタを開けてみて、はじめてアカだとわかるのはマズイです。つまり「原価計算がきちんとしていて、儲かります」。

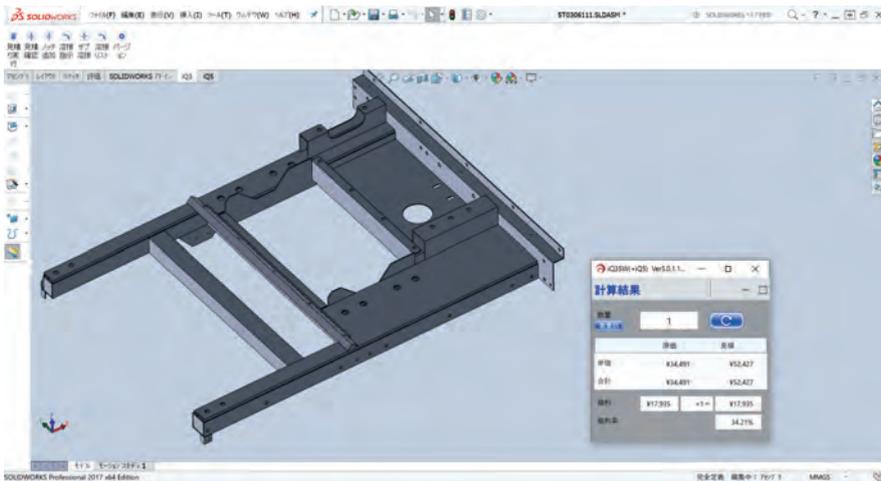
そう言うところ「口だけならいくらでも言える」と言われないうちに、自分で工場をつくりました。1500㎡の敷地に従業員12人。その工場データを蓄積してきましたから自信はあります。

次世代が継ぎたくなくなる経営を

板金に限らないが、製造業の事業承継がうまくいっていないと言われて久しい。次代を担う世代は、デジタル化でありIT・AI等でスマートに稼ぐ



代表取締役 石田 浩太郎 氏



3Dソフト

「このソフトは、関係項目を机上にあげることからスタートします。材料費、人件費、工程ごとの時間、建屋の家賃、機械の支払い、レーザの燃料費等、アプリにインプットされる項目は、3800程に及びます。びつ

くりされる数字ですが、その作業は、当該企業と私共からの2人で行い2日間で終わります。

当社も基になるデータをもっているのに、驚かれるほどではないです。あとはPCのキーをポンポンと押すだけです。

原価の見直しは必要

— 人件費や光熱費など環境は変わっていきます。使っている中で原価の見直しは必要です。「たまたま労働時間が伸びてしまった」は直さなくてもいい。しかし、「いつも長くなってしまっている」場合は直さなくてはならない。

それより日常的に長くなっている場合、原因を探さなくてはいけない。ボトルネックはどこか。人的な問題で1人の能力が低くて、そこで滞留しているのが分かると、何らかの対処をし、労働時間を是正できます。

原価を見直すことは、経営の方向性のブレを正常にすることにも役立っているのです。

確かな見積もりは納期生産計画につながる

— 納期生産計画を立てるときに、時間をきちんと計算して見積もりを出



製造原価が分かることにより、限界利益も見えてくる。

す。受注して、あるいは生産をはじめて、もっと言えば納期2、3日前にできないと言っているのは最悪と言えます。資材担当が一番困るのが、不良品をよく出す会社、納期を守らない会社、値段が安いだけでは、資材は恐がって出さない。値段はそこそこで、納期を守り、不良品を出さないところが重視されると思います。要は、原価計算が一貫しているかどうかです。

さらに、板金・製缶図面の3次元化で、見積もり・加工の効率化へ

— 製缶など鉄骨系の図面でも、大半のメーカーは、3次元の図面で見積

もりを取り発注しています。これだとベテランの職人でなければ立体をイメージできません。頭の中で完成時を想像しなげながら細かい部分も見なければいけないし、大変な作業を強いられます。

当社では図面からリアルな立体で見られる3次元ソフトを出しています。2次元の図面だけだと、図面から部品番号を探しながら大変な思いをしなげらやることになりましたが、瞬時に全体像が把握できますし、番号を探すのはいたって容易です。さらに、データを機械に読ませると、機械が形をつくっていくてくれます。

これからは、こうしたことを取り入れないと、効率化は進まないと思います。

ゼロフォー株式会社

- 代表取締役 石田 浩太郎
 - 本社 神奈川県厚木市旭町 1-8-6
電話 046-258-6327 (代)
- きらぼし銀行 海老名支店会員

取材・構成 ● 永瀬 満